

国際機関等名	国際とうもろこし・小麦改良センター (英文名称・略称) International Maize and Wheat Improvement Center (CIMMYT)					
種別	国連(事務局)		国連(基金・計画)		国連専門機関 (その他)	
所轄官庁担当局課名	農林水産省技術会議事務局国際研究課					
最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率						
単位	金額				拠出率(%) (注1)	ODA率(%)
	邦貨 (千円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レート		
平成17年度	61,409	574		1\$ = 107円	(2005年) 100	100
平成16年度	63,121	574		1\$ = 110円	(2004年) 100	100
平成15年度					(2003年)	
拠出上位5ヶ国				国際機関等の財政 (2005年度決算)		
	国名	金額(千ドル)	率(%)	当該年度の収入 573,920ドル		
1位	日本	574	100	当該年度の支出 573,920ドル		
2位				次年度への繰越 0ドル		
3位				会計検査機関名		
4位						
5位						
上記の率及び順位は2005年のもの				(現在の構成員の出身国:)		
当該機関に対する我が国としての評価(当該国際機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)						
CIMMYTとは従来から(独)国際農林水産業研究センターの専門家が滞在し共同研究を実施しており、半乾燥地における障害抵抗性麦類の開発等の研究を実施してきた。CIMMYTは緑の革命の功績によりノーベル賞を受賞したボーローグ博士が所属する等世界の小麦研究のセンター的な役割を果たしており、本事業により小麦赤かび病に関する研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献すると考えている。さらに、CIMMYTは世界の小麦の遺伝子を保存しており、我が国の小麦の品種改良においても						
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価						
現地スタッフの大幅削減や研究テーマの絞り込み、日本事務所の閉鎖に見られるような事務拠点の整理等、活動の合理化、機能強化のための取り組みが積極的に行われている。						
邦人職員数 うち幹部以上	6人(注2) うち 1人		当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体に しめる率	632人 0.9%		
邦人職員が占めている幹部ポスト(注3)						
ポストの名称		職員氏名		備考		
所長		岩永勝		((独)国際農林水産業研究センターからの派遣)		
理事		東久雄		農水産業協同組合貯金保険機構理事長		
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画						
現在、16名の理事のうち、2名を邦人が占めている。また、邦人研究者も多い。CIMMYTの主要ポストに対し、邦人の雇用に加え、様々な形態で邦人職員を派遣する等今後も積極的に邦人を送り込むために活動することとしている。						

(注1) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年(2003年～2005年)。

(注2) うち2名は我が国独立行政法人からの長期出張

(注3) 理事長及び理事は職員としてカウントされていない。

(参考) CIMMYTには、この他に外務省から拠出あり。